

歯科放射線診療ガイドライン委員会第9回会議議事録

日時：2011（平成23）年9月30日（金）14:30～15:00

場所：新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」講義室

出席者：有地榮一郎（理事長）、佐野 司、田口 明、小林 馨、（西山秀昌、田中 礼）、林 孝文（順不同・敬称略）

報告事項：

1．インプラントの画像診断ガイドラインの改訂について

現在の第2版（Minds 収載）は2008年9月1日付であり、改訂を2年後としていた。改訂小委員会委員として、愛知学院大学の内藤宗孝先生、鹿児島大学の犬童寛子先生、日本歯科大学の河合泰輔先生、新潟大学の田中礼先生の4名を基本委員に加えた。諸事情で作業が遅れていたが、今年度中に改訂の方針とスケジュールを決定する予定である。本学会終了後、早急に委員会を開催することとする。

2．顎関節症の画像診断ガイドラインの見直しについて

「顎関節痛の原因診断におけるMRIの有用性に関するガイドライン」については、日本歯科医学会事務局から歯科診療ガイドラインライブラリーへの収載を打診されていたが、日本顎関節学会のガイドラインと歩調を合わせる意味でGRADE準拠への転向を主旨として全面的に見直したいという意向を伝え、保留していただいている。委員長が主体となってその方針とスケジュールを決定する予定である。

審議事項：

1．インプラントの画像診断ガイドライン活動計画

委員会開催と改訂作業開始について了承された。また前回策定時と比較しCBCTの論文が激増しているため、追加検索の結果によってはエビデンスレベルや推奨度の見直しを行う必要があるとの認識で一致した。

2．顎関節症の画像診断ガイドライン活動計画

GRADE導入の方向性について了承された（委員長一任）。

3．埋伏歯の画像診断ガイドライン・歯内療法の画像診断ガイドラインの策定について

有地理事長から、CBCTの歯科医学会プロジェクト研究の成果を受け、標記ガイドラインの策定について提案がなされた。歯内療法についてはすでに関連学会で作業が開始されているとのことであり、特に「下顎智歯及び埋伏歯」について、本学会で早急に委員を選出し今年度中に策定を行う方針とすることが了承された。ガイドラインの形式としてはMinds形式とし、診療の流れに配慮してポイントを絞って進めることを確認した。加えて、変形性顎関節症におけるCBCTの意義に関するガイドライン策定について意見交換がなされ、本田教授に照会することとなった。

文責：林